

項目	自己評価	中期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況 未達成	改善方策	学校運営協議会による評価	評価
確かな学力	S・A・B・C	①大柘中学校の授業スタンダードの質の向上を図る。 ②主体的・対話的に学ぶ授業を創造することで、思考力・判断力・表現力を養う。 ③家庭・地域との協働により、家庭学習の充実と良い生活リズムの確立で学力向上を図る。	①「教科間連携事業」によるチーム会を定着させることで教職員自身が主体的・対話的に授業改善を図る体制を構築する。 ②授業改善のための校内研修を充実させ、「授業スタンダード」の質の向上を図る。教科間連携を図り、教科の枠を超えた授業力の向上を研究する。 ③家庭訪問や広報活動をすすめ、家庭と連携して家庭学習の質と量を高めていく。 ◆学期ごとの振り返りを全教職員で行いPDCAを生かした教育実践を行う。	①(生徒アンケート結果(強い肯定的評価)) ①「授業の内容がわかる」5教科55%以上 ②「授業のなかで学習の振り返りをしている」5教科55%以上 ③話し合いのなかで、自分の考えを深めたり広げたりできている」5教科70%以上 (2)家庭学習時間 ④90分以上(60%以上) ⑤30分未満(8%以内)	(1)生徒アンケート結果(強い肯定的評価) ①56% ②52% ③54% (2)家庭学習時間 ④50% ⑤9% 授業での振り返りや探究の場を苦手としている。家庭学習は取り組みも進み一定の成果が見られる。 取組は、行うことができた。家庭学習は、小中合同研でのテーマとし共通確認を行った。	①授業スタンダードの徹底。生徒が振り返りができる時間の確保。 ②考えを深めることのできる話し合いの場面の設定を重点的に行う。 ③授業や家庭学習は、小学校と一貫教育を視野にいれた系統性のある指導を進める。 ④教科間連携は推進校として、継続した取り組みを進める。 ⑤講師招聘による授業の質の向上を図る。	①改善方策①②を定着させ、生徒の学習意欲を高め学力向上を図って欲しい。 ②授業での振り返りや探究を苦手とする生徒には一人ひとりに応じた学習方法を指導して欲しい。	S・A・B・C
		①「保・小・中一貫教育」及び「地域との協働」により、物部がめざす子どもの姿である「郷土愛」「チャレンジ精神」「コミュニケーション力」を育む。 ②よりよい人間関係づくりを推進することで、規範意識及び自尊感情の高揚を図る。	①講師招聘の道徳校内研修により、教職員の教育力・指導力を高める。 ①保・小・中の子どもの交流や発表会により、子ども同士の発達段階に応じた好ましい人間関係を構築する。 ②「総合的な学習の時間」の充実させ、地域との協働活動を通して、主体性を育む。 ◆物部がめざす子どもの姿の評価規準の確認を行い、進捗を確認する。	生徒アンケート結果(肯定的評価) (1)郷土愛(95%以上) ①自分のすんでいる地域が好き ②地域の方々に感謝している ③地域に貢献できる人間になりたい (2)チャレンジ精神(80%以上) ④目標を実現するために努力できる ⑤難しいことでも失敗を恐れず挑戦している ⑥将来の夢や目標を持っている (3)コミュニケーション力(80%以上) ⑦自分から進んで人に挨拶できる ⑧人の考えや発表を誠実に聞くことができる ⑨自分の考えや思いを伝えることができる	生徒アンケート結果(肯定的評価) (1)郷土愛①96% ②100% ③93% (2)チャレンジ精神④86% ⑤71% ⑥86% (3)コミュニケーション力⑦89% ⑧86% ⑨71% 各カテゴリーごと10PIほど目標値に達していない。一定満足いく回答ではあるが、挑戦したり、行動化を図ることに弱さが見られる。	①講師招聘による道徳校内研修により、教員の資質指導力の向上を図る。 ②小学校と連携した「総合的な学習の時間」の整理を行い充実につなげる。 ③「物部がめざす子どもの姿」の見直しの徹底を図る。 ④地域をより理解し、主体的に地域に貢献できる生徒を「行事」を中心として取り組む。	①改善方策を定着させる取り組みを実施して欲しい。 ②教職員の教育力・指導力がすばらしく、地域と継続した取り組みの成果として、生徒の郷土愛・チャレンジ精神・コミュニケーション力が育っているように思う。	S・A・B・C
		①運動習慣の定着、体力向上の意識化を図る。 ②体育的行事や体育の授業を通じて、主体的に運動を行う意欲を高める。 ③部活動の充実を図り、体力面や精神面の向上を図る。	①基本的な生活リズムの定着が運動能力や体力の向上、健康な体づくりにつながることを生徒、保護者に啓発していく。 ②発達段階に応じ、適切な評価を行い、体力、運動能力を高める体育的行事や体育の授業を工夫する。 ③部会の実施や複数教員での効果的な指導、外部指導者の活用により、心身の成長を図る。 ◆部活動及び体育的行事の充実を図る。	生徒アンケート結果 (1)運動関係(強い肯定的評価) ①体育の授業が好きである(80%以上) ②部活動は充実している(40%以上) (2)生活リズム ③スマートフォン・テレビ・ゲームの時間(平日2時間未満60%以上) (3) ④毎日朝食を食べている(100%) ⑤基本的な生活習慣の項目(5項目)(肯定的評価の割合)85%以上 ・全国体力・運動能力・運動習慣調査で全国平均を上回る。	生徒アンケート結果 (1)運動関係(強い肯定的評価) ①83% ②33% (2)生活リズム ③37% (3) ④95% ⑤82%、82%、75%、60%、53%ですべて目標に達していない。 ・体力・運動能力・運動習慣調査(T得点 男48.7、女45.8:全国50)	①継続して、部活動及び体育的行事で生徒が主体的に動けるようにする。 ②保護者・生徒・教職員の協働による生活習慣の確立を図る。 ③PTA活動、子育て講演会、人権参観日等を実施する。 ④情報モラルを、情報教育を推進しながら学ぶ。そのために、教職員のスキルアップを図る。	①改善方策のとおり推進して欲しい。 ②生活習慣については、物部っ子生活リズム計画を生徒と家庭に啓発する。また保護者と生徒と一緒にスマートフォンやテレビ・ゲームなどメディアへの対応について講演を聴く機会を持ち、保護者と生徒がワークショップを行うなど、意識を高める方法なども取り入れてはどうだろうか。	S・A・B・C
		「大柘保・小・中学校運営協議会」及び「物部地域学校協働本部」の一体的な取り組みを継続的に行うことで持続可能な「地域とともにある学校づくり」を確立する。	①学校運営協議会の計画的開催(6回)と教職員との熟議の実施、小学校と連携した取組、PTA活動の研究 ②物部地域学校協働本部の計画的開催(年3回)と各部会の活性化による協働の推進 ③物部地域ボランティア委員の確保と幅広く継続的な地域学校協働活動の推進 ◆「熟議・協働・マネジメント」を中心とした「チーム物部」により資質・能力を育む。	(1)生徒アンケート結果・自尊感情(肯定的評価) ①自分の良さがわかる(65%) ②人の役に立つ人間になりたい(90%) ③自分の判断や行動を信じられる(80%) (2)地域学校協働活動(保小中合計) ④年間350回以上 ⑤参画人数 延べ2500以上 (3)保護者との連携(参加率90%以上) ⑥日曜参観日 ⑦湖水祭り・運動会 ⑧愛校作業・道草刈り	(1)生徒アンケート結果・自尊感情(肯定的評価) ①68% ②93% ③71% (2)地域学校協働活動(保小中合計) ④54回 ⑤1,300人(12月末) (3)保護者との連携は、多くの参加を得て、ほぼ達成することができた。 生徒アンケートは1設問で目標にどこかなかった。協働活動は数値こそ少ないが、多くの場面で協働的な活動ができた。	①大柘保・小・中学校運営協議会を年6回、教職員・保護者・委員による熟議を実施する。 ②物部地域学校協働本部を年3回(総会)・各部会を実施する。 ③物部の教育を考える会を年12回実施する。 ④行事・活動は、生徒の主体性を伸ばすよう努め、自尊感情を育てる。	①高齢化が進み、地域の力が弱くなってきている。 ・生徒が地域に出向き、地域の課題解決に主体的に取り組む機会をつくり、地域の現状を理解し、活性化に向けて地域の方と共に活動するなど、様々なことにチャレンジできる体制をつくり、「地域とともにある学校づくり」により積極的に取り組んで欲しい。 ②「地域に貢献したい」と思う子どもの育成を目指し、保小中が継続して取り組む全体計画を検討し進めて欲しい。	S・A・B・C
保・小・中における教育実践を効果的に行うことで、学びを将来や生活につなげていくための持続可能な体制づくりを構築する。	①子どもたちの交流を図ることで自尊感情を高め、発達段階に応じた成長を育む。 ②保護者間の交流を図ることで、子どもの成長を育むためのPTA活動を活性化していく。 ③教職員の交流を図ることで、目標・ビジョンを共有し、アクションを共有し、成功体験を共有することで5つの力である「郷土愛・チャレンジ精神・コミュニケーション力・自尊感情・学力向上」を育む。 ◆カリキュラム・マネジメントの確立	(1)子どもの交流活動 ①6年生と中1との交流 ②保小中合同運動会(合同集会) ③マラソン大会 ※アンケート(肯定的評価) ■中学校生活が楽しみである(5・6年生アンケート 11月実施 90%以上) (2)PTAの交流 ③合同PTA役員会(年3回)※組織や活性化の協議 (3)教職員の交流 ④合同研修会(年3回)⑤合同連絡会(年2回) (4)人との関わり、人間力に関する力の項目(5項目)肯定的評価 90%以上	(1)子どもの交流活動 ・中学校生活が楽しみである(6年生アンケート57%) (2)PTAの交流③④実施できた (3)教職員の交流④⑤実施できた (4)人との関わり、人間力に関する力の項目 93%、93%、68%、93%、96% 教職員の研修の合同開催や行事などで連携は進んでいるが、「一貫教育」を行うためには、思い切った施策が必要。	①行事の整理と合同開催の研究をする。(運動会、マラソン、参観日) ②小学校外国語の授業への中学校教員の乗り入れを行う。 ③合同授業研究と研究授業の実施。(年2回)県外から講師招聘する。 ④小学校上級学年の中学校への受け入れを研究する。	①改善方策のとおり推進して欲しい。 保小中一貫教育は学校が離れている、教室がない、などを理由にするのではなく「どうしたらできるのか」を検討し、小中が連携し研究しながら少しずつ動いている様子があり嬉しく思います。	S・A・B・C		

※評価欄 評定S「優れている」、評定A「良い」、評定B「おおむね満足」、評定C「要改善」

※この評価書は、年度末に学校のホームページで公表